

平成 29 年 9 月 13 日

生徒・保護者の皆様

厚木高等学校長

平成 29 年度 第 1 回生徒による授業評価結果について

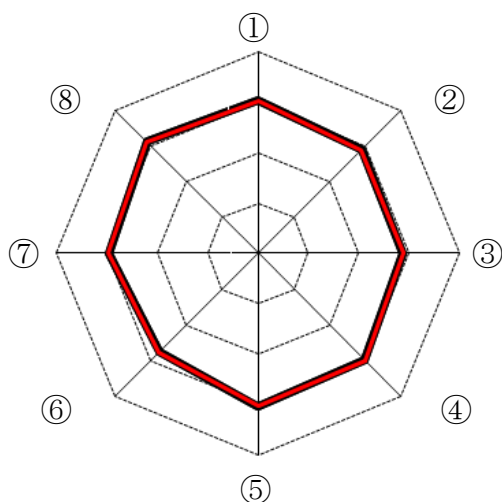
初秋の候、皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

さて、今年度 6 月実施の「生徒による授業評価」について報告いたします。全教科全学年の合計を見ますと、ほとんどの質問項目について肯定的な回答を示した生徒が 80%以上となっており、レーダーチャートの形もバランスの良いものとなりました。しかし、これらの数値については全教科の平均値ですので、教科によるバラつきもあり、少数ではありますが、授業に満足を得られない生徒もおります。項目別に見てみますと、「④ 生徒主体の授業の工夫」「⑦ 学習への取り組み」「⑧ 態度・姿勢」についての肯定的な評価は前回とほぼ変わりませんでした。その他の項目については前回は下回る結果となりました。特に、「⑥ 生徒への接し方」につきましては、他の項目に比べて低い数値となりました。後期に向けての課題と受け止め、授業改善に取り組んでいきたいと考えております。

今後も、質の高い授業を目指し、教職員一同、更なる研鑽を重ねて参りますので、引き続き、ご理解、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

1. 結果

（※ 選択番号 → 1：まったく当てはまらない 2：あまり当てはまらない 3：だいたい当てはまる 4：とても当てはまる）																
質問項目	授業内容						指導方法						生徒自身の取り組み状況			
	① 授業の準備 教材の工夫		② 授業の 充実感		③ 授業の 進め方		④ 生徒主体の 授業の工夫		⑤ 説明の 分かり易さ		⑥ 生徒への 接し方		⑦ 学習への 取り組み		⑧ 態度・姿勢	
選択番号	（%）		（%）		（%）		（%）		（%）		（%）		（%）		（%）	
	前回	今回	前回	今回	前回	今回	前回	今回	前回	今回	前回	今回	前回	今回	前回	今回
1	2.9	2.3	3.0	2.9	3.3	3.0	4.7	4.4	3.2	3.0	3.4	3.8	3.2	2.7	2.6	1.9
2	10.2	12.5	12.3	15.4	12.7	16.7	12.0	14.3	10.8	13.0	15.3	20.1	12.4	14.5	10.1	10.8
3	47.2	50.3	49.1	52.7	48.5	49.6	40.5	39.6	44.2	46.0	46.2	48.1	46.4	49.7	44.7	47.8
4	39.7	34.9	35.5	29.0	35.5	30.7	42.9	41.7	41.9	38.1	35.0	28.0	38.0	33.1	42.7	39.5
平均	3.1	3.0	3.0	2.9	3.0	2.9	3.0	3.0	3.1	3.0	2.9	2.8	3.0	3.0	3.1	3.1



- ① 教材が工夫されるなどして、取り組みやすい授業である。
- ② 私は授業で学習した内容がだいたい理解できている。
- ③ 生徒の理解度に合わせて、授業が進められている。
- ④ 授業中、生徒同士で話し合う機会や意見などを発表する機会がある。
- ⑤ 説明の仕方がていねいで、わかりやすい授業である。
- ⑥ 生徒一人ひとりに目を配った、きめ細かい指導がなされている。
- ⑦ 私は授業でわからないところがあったら、先生や友達に聞いたり、自分で調べたりするなどしてわかろうとする努力をしている。
- ⑧ 私は授業に対して意欲的に取り組んでいる。

2. 各教科の分析結果

- 今年度は評価項目 4（生徒主体の授業の工夫）について、重点的に振り返りを行い、次の点があげられた。

【国語】

- ・ 現代文（小説）：原文通読の後、グループ別に場面のテーマを設定し、劇を作り発表した。
- ・ 古典（漢文）：独自の故事成語をつくる。（個人→グループでまとめ、発表。）

【地理歴史公民】

- ・ 単元ごとにグループワークを取り入れ、単元の内容の理解に効果的であった。

【数学】

- ・ 新しい問題、解法について教員同士で積極的に話し合い、情報を共有することでよい授業をしている。また項目 6 が高評価だったのは日頃から生徒一人ひとりに目を配り、指導している取り組みが実を結んだと考えている。

【理科】

- ・ 昨年度に引き続き、生徒の実態に合わせた新しい教材の開発が進められている。ペアワークやグループワークが定着し、生徒が自ら考え、発言や発表する機会が確保できている。

【英語】

- ・ 1 年生の英語で新たに「英語表現 I」が加わり、グループワークやディスカッションを増やした。昨年までの文法否定、アクティブラーニング一辺倒の渦から脱却し、4 技能のバランスの取れた深い学びを志向する教科指導への取り組みを多く行っている。

【保健体育】

- ・ 保健の授業では、実習を入れることとし、1 年では他校から AED を借用して、救急法の授業を展開した。2 年では、高齢者体験を取り入れ、厚木市の社会福祉協議会と連携し、車椅子介助体験・視覚障害体験と介助を実施した。体験型授業は、生徒にも知識を実践にうつす重要な授業と理解させ継続していきたい。

【芸術】

- ・ まなボードを使用し、楽曲背景や歌詞の内容、曲想の理解を深める機会をつくると、全員で一人ひとりが解釈した楽曲の内容を共有し、演奏に取り組むことができたので、一人ひとりの楽曲への理解度は高まったように思う。

【家庭科】

- ・ 班毎の実習やグループワークの中で、話し合いによる役割分担や作業中に生徒同士が助け合い、学び合い、協力する姿勢が見られた。

○ 後期にむけた取り組み

【国語】

- ・授業取り組みの情報交換を密に行い、良いものをお互いに積極的に取り入れる。

【地理歴史公民】

- ・深い学びのためにどう教えるかは大切だが、それとともに、基礎知識の習得、学習内容の面白さを伝えることはとても重要である。グループワークなどの有用性は認めつつ、基礎知識の習得、学習内容の面白さを伝えていく。

【数学】

- ・日頃から教員間で解法指導法等について話し合うことで情報を共有し、より良い授業をしていく。

【理科】

- ・話し合う時間は確保されているが、学習内容の定着をはかるための手立てが必要である。生徒の理解を深める教材の工夫や話し合いと丁寧な説明とのバランスについて検討していく。

【英語】

- ・良かった取り組みに関して教科で共有し積極的に授業に取り入れる姿勢を維持していく。

【保健体育】

- ・授業は常に互いに良い点を取り入れ改善していく。

【芸術】

- ・著しく低い項目が項目7については、授業時間内でわからないところがないように、理解が深まるように授業展開等を工夫していく。項目6については教材の難易度や授業計画を見直し、より多くの時間をかけて丁寧に生徒の対応をしていく。

【家庭科】

- ・実習だけでなく、知識の定着をねらう場面でもグループワークや意見交換できる授業展開を工夫する。

問合せ先

教頭 加藤 一彦

TEL 046-221-4490